

先進医療研究棟構想をスタート 地域に貢献 新しい医療を追究



愛知医科大学（長久手市）は今年創立50周年を迎える。これまでに、新時代の医学知識、技術を身につけた、教養と人間性豊かな臨床医を輩出し、時代の要請に応え地域社会に奉仕できる医療関係者を育ててきた。半世紀を機に、施設や設備、教育研究環境をさらに充実、研究倫理遵守体制などの整備を進める。長年にわたる名古屋大学医学部でのキャリアを経て、2年前から学校法人の理事長と学長を兼務する祖父江元（げん）さんが語る次の半世紀に向けての愛知医大の構想とは―。

―11月3日が開学記念日ですね。

祖父江 愛知医科大学は1972年に建学され、今年創立50周年にあたります。11月3日の開学記念日を中心に、様々な記念行事を予定しています。先人たちのこれまでの努力に感謝し、本学の今後の発展に向けて、建学の精神「新時代の医学知識・技術を備えた教養豊かな臨床医を養成する」「時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成する」「医療をより良く発展向上させるための医学指導者を養成する」で新しい医療の在り方を追究していきたい。

―キャンパス整備が終了。次なる課題につ

いては。

祖父江 2007年からキャンパス再整備計画を進めてきました。医学部、看護学部学生の勉強スペースである「医心館」建設、立体駐車場建設、保育園建設。14年には中央棟（新病院棟）が開院。17年にはバスロータリー、立石プラザ、18年に立石池周辺道路の拡幅工事、ドクターヘリ格納庫整備などを進めてきました。

50周年の記念事業の一つとしては、21年4月に愛知医科大学メディカルセンター（分院）の開院があります。大学分院ならではの質の高い医療を提供して地域と共に生きる中核病

院として、また、若い医師を育てる「教育病院」としての拠点化を目指しています。23年3月の365日2次救急開始に向け、常勤医師の大幅な増員や教育を含めた専修医を配置したいと思っています。診療状況はさらに活気が出てきています。

―連携大学院方式とは？

祖父江 本学初の試みで、愛知医科大学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンターとの連携・協力に関する協定書を締結し、本学の教育・研究の進展及び充実を図ることが目的です。21年4月より「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置しました。そして、（一社）日本造血細胞移植データセンターを本学（2号館＝研究棟）に今年1月に、移設・開設いたしました。これは、全国350施設からの12万例に及ぶ患者さんデータを集積、我国の造血細胞移植データ集積の拠点になっています。

また、眼科クリニック MiRAI を7月に開設しました。これは名古屋市東区にある開設38年の愛知医科大学メディカルクリニックが初期の目的を達成したため、診療体制等の見直しを行い、株式会社メニコンとの、産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り研究手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点として生まれ変わったものです。

さらには、学生の学修環境及び福利厚生の実として、「医心館セミナー室拡充」「スターボックス誘致」「レストラン『オレンジ』の改修」があります。医心館は、学修用施設として利用されており、特に国家試験を控えた学生のグループ学修に必要なセミナー室が設置されています。今後さらなる学修環境の向上を目的に拡充を行っていきます。

―最高水準を目指す教育とは。

祖父江 医学教育においては、2019年に国際認証評価である医学教育分野別評価、20年には大学評価を受審し、いずれも高い評価をいただいています。看護学教育についても、23年の看護学教育評価受審に向けて準備を進

めているところです。

―診療体制については。

祖父江 本学は、19年4月1日に「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、10月に「がんセンター」が設置されました。リハビリ医療の推進も重要です。急性期リハの活性化や生活期リハのシステム化のほかに今後IT化なども重要と考えています。手術件数は年間1万3000件を上回っており、ドクターヘリも活躍。地域の中核病院として、ますます充実してきています。さらに新任教授を中心に診療体制の充実を図っています。脳神経外科では、血管内治療、脊椎脊髄外科治療、神経内視鏡治療では全国でも有数の体制を整えています。また、痛みセンター、睡眠医療センターは、全国的にも治療に直結するユニークな試みを展開しています。これらの先進化した教育、研究、診療リソースを最大限に活用して、医学部・看護学部の学部生、大学院生は充実した学修・実習を進めることができます。

さらに、県内有数の救急災害医療の拠点病院として、災害医療研究センターを設置し、災害医療研究や教育、災害医療の啓発活動に積極的に取り組み、南海トラフ大地震に備える役割を果たせるように努めております。

―次の50年へ向けての構想を。

祖父江 先進医療研究棟構想をスタートさせます。「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」「地域医療・地域貢献の促進」など5つの目標を掲げ、その実現に向けた先進医療研究棟プロジェクトを順次発足していきます。21世紀における新しい医療の在り方を掲示するため、教育、研究、診療の全てにおいて、効率化を実践し、成果を上げてまいります。

祖父江 元（そぶえ げん）

1975年3月、名古屋大学医学部卒業。81年3月、名古屋大学大学院医学研究科修了（医学博士）。95年4月、名古屋大学医学部神経内科教授。2018年1月、学校法人愛知医科大学副理事長などを経て19年1月より同理事長。20年4月、愛知医科大学長（兼務）。